

がん看護専門看護師養成コースの概要 及び研究への取り組み

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科
がん看護専門看護師養成コース
山田 忍

高度実践看護師 (Advanced Practice Nurse : APN)

日本看護系大学協議会 (Japan Association of Nursing Programs in Universities : JANPU) の認定している高度実践看護師教育課程

14分野(38単位)
(日本看護協会による資格認定制度)
専門看護師
(Certified Nurse Specialist : CNS)

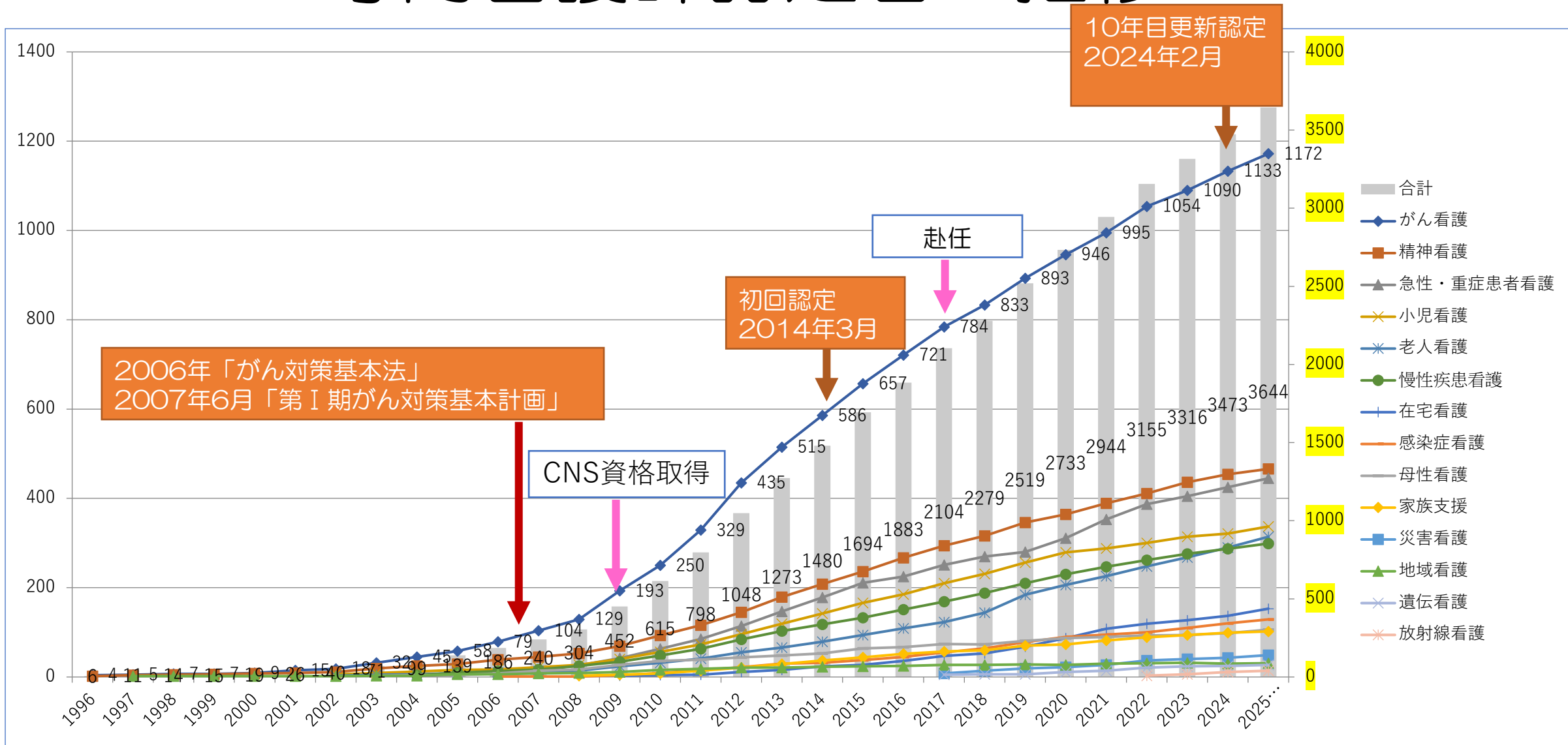
がん看護	感染看護
慢性看護	地域看護
母性看護	クリティカルケア看護
小児看護	在宅看護
老年看護	遺伝看護
精神看護	災害看護
家族看護	放射線看護

1分野(46単位)
(日本看護系大学協議会による資格認定制度)

ナースプラクティショナー
(Certified Nurse Practitioner : NP)

プライマリケア看護

専門看護師認定者 推移



緩和ケア病棟

専門看護師(CNS)の仕事

実践

健康問題を持つ方やご家族などに、直接、専門的で質の高い看護ケアを提供すること

教育

看護スタッフや他の医療諸悪者など、ケアに関わる人への教育的な役割を果たすこと

相談

ご家族や看護スタッフなど、ケアに関わる人の相談にのること

調整

必要なケアがスムーズに提供されるように、ケアにかかわる人々
の間の調整を図ること

研究

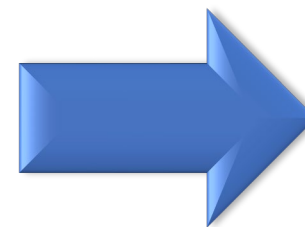
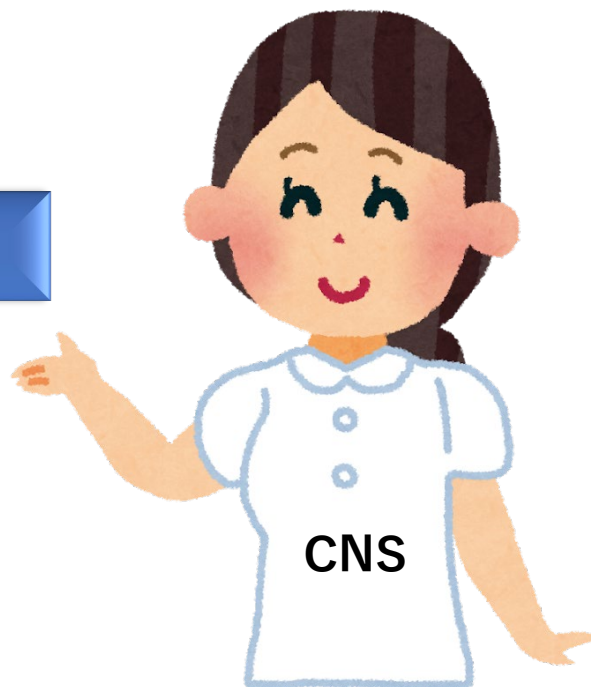
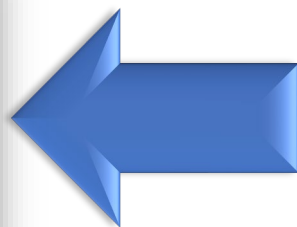
専門知識・技術の向上や開発のために研究活動を行うこと

倫理

ケアにかかわる倫理的な問題について、関係者間での話し合いが
持てるように調整すること

暗黙知：We know more than we can tell.

- 家族の「本音」を察する力
- 医療者同士の力関係・空気感の読み取り
- 倫理的違和感を「何かおかしい」と感じ取る感覚
- 組織文化を踏まえた“今はこの言い方がいい”という判断



患者・家族
患者・家族の「言語化
されない困りごと」

研究内容

地域ニーズを踏まえ、医療提供体制の変化に伴うCNSの役割

情報通信技術（ICT）を背景とした施設から在宅医療への移行支援におけるがん看護専門看護師の役割. 第10回日本がんサポーターティブケア学会学術集会ワークショップ, 2025. 5, 和歌山市.

がん患者の在宅医療に携わる専門看護師の情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）活用能力

博士後期課程での研究の発展：暗黙知をどう研究で明らかにするのか

Sugitani, S., Yamada, S. (2025) : actors facilitating effective collaboration between labor and social security attorneys and medical professionals in supporting cancer survivors balancing treatment and work. *Asia-Pacific journal of oncology nursing*. DOI: 10.1016/j.apjon.2025.100732.

Shiraisi, H. , Yamada, S. (2025) : Experiences of Palliative Care Unit Nurses That Lead to the Decision to Continue Advance Care Planning. *Japanese Journal of Applied Psychology*. 51,(1), 1-20.

林真紀子, 山田忍（共著者2名中2番目）(2024)：がんゲノム医療を受ける患者への看護と看護師の死生観との関連. *日本看護研究学会雑誌*, 47(1), 61-72.

石徹白しのぶ, 山田忍（共著者2名中2番目）(2024)：がん患者へのアドバンス・ケア・プランニングを行う上でリンクナースが感じる障壁の検討. *日本看護研究学会雑誌*, 47(2), 175-187.

瞑想研究への取り組み

- Yamada, S., et al(2022). Pilot Study on Intervention in Breast Cancer Patients with Loving-Kindness and Mindfulness Meditation. *JJCAM*, 87-96.
- Yamada, S., et al(2025). A Randomized Controlled Pilot Study on the Effects of Loving-Kindness and Mindfulness Meditation (LKM) on Patients in a Sterile Isolation Room to Improve Their Mood Status. *JJCAM*, 9-17.

博士研究

序章 クリーンルーム入室患者の疾患への適応に関する研究の必要性

第1章 がん告知後の患者が看護師に期待する看護支援

がん告知後の患者が期待する看護支援

がん告知後の患者が期待する看護支援の構造

がん告知後適応に至るまでの患者が期待する看護支援

第2章 がん看護に携わる看護師の専門的教育の必要性

がん看護に携わる看護師教育

がん看護における専門的役割を担う
看護師の育成

第3章 看護師がクリーンルーム入室患者を評価する視点

クリーン
ルーム入室
患者(同種造
血幹細胞移
植患者)のス
トレス領域

クリーン
ルーム入室
患者の医療
者が捉える
不適応感

クリーン
ルーム入室
患者を医療
者が捉える
不適応感の
違い

看護師が医
療現場で活
用できる尺
度

第4章 クリーンルーム入室患者の不適応感尺度(CNA-S)の開発

第5章 クリーンルーム入室患者の不適応感尺度2(CNA-S2)の臨床での活用

終章 患者の期待する看護を尊重する視点, 看護師のスキルアップへの意欲を支える視点, 患者に負担なく不適応な状況をスクリーニングする視点

クリーンルーム入室患者の適応に向けての支援

慈悲とマイノリティフレンドネス瞑想による心理的
自己調整力の向上を通じた適応の促進

テキストマイニング

テキストデータ(原文／文章形式)

前処理

同義語・複合語・削除語
を分析の妥当性を高めて
いく

形態素解析(品詞Wordの切り出し)

システム内辞書の作成

My辞書の作成

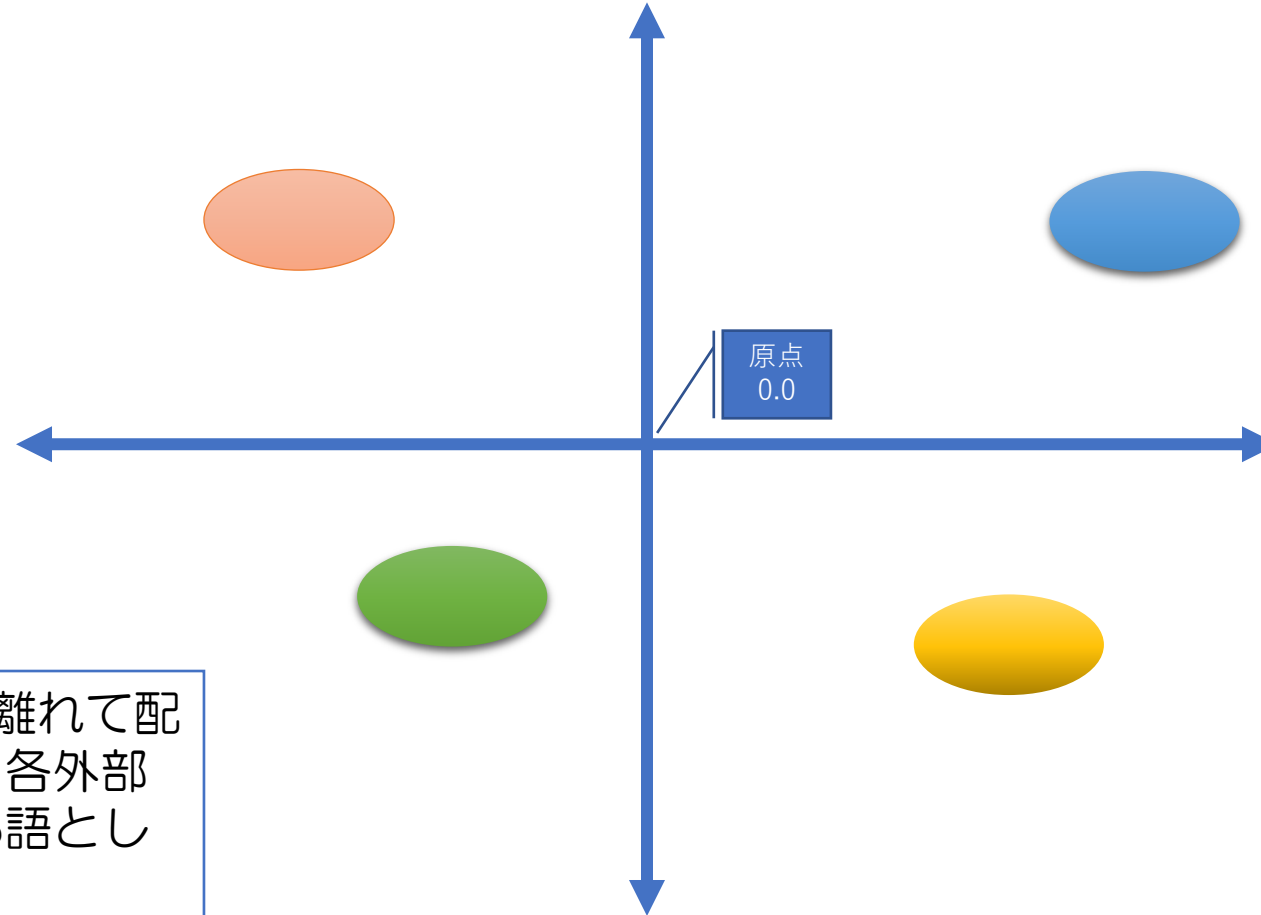
検索と集計・分析を可視化を含め繰
り返す。

質的データを何度も読み
返し、クラスター分析の
因子名とする。

コンコーダンスの読み取
り。

対応分析：外部変数(介入の時期)と特徴語の関係を可視化

2次元散布図



原点 (0,0) から離れて配置された語ほど、各外部変数の特徴づける語として解釈

4期の特徴語の解釈：対応分析による結果の考察

導入期：「心」を中心に，内面へ意図的に注意を向ける段階がみられた。

習得期：「感覚」が特徴となり，注意は内面から外界へと広がっていた。

安定期：「体」の感覚が前面に出て，心ではなく身体を通した気づきが深まっていた。

定着期：「自分」が特徴語となり，自分を客観的に捉えるような，日常とは異なる自己意識の変化が生じていた。

瞑想の継続により意識や体験が変化する可能性を示唆している。また，慈悲とマインドフルネス瞑想では，喜びや落ち着きといったポジティブな感情が生じ，先行研究と同様に精神的安定や満足感の向上につながる効果が示唆された。

クリーンルーム入室患者への慈悲とマインドフルネス瞑想

Yamada, S., et al.(2025). A Randomized Controlled Pilot Study on the Effects of Loving-Kindness and Mindfulness Meditation (LKM) on Patients in a Sterile Isolation Room to Improve Their Mood Status Japanese journal of complementary and alternative medicine 22(1), 9-17.

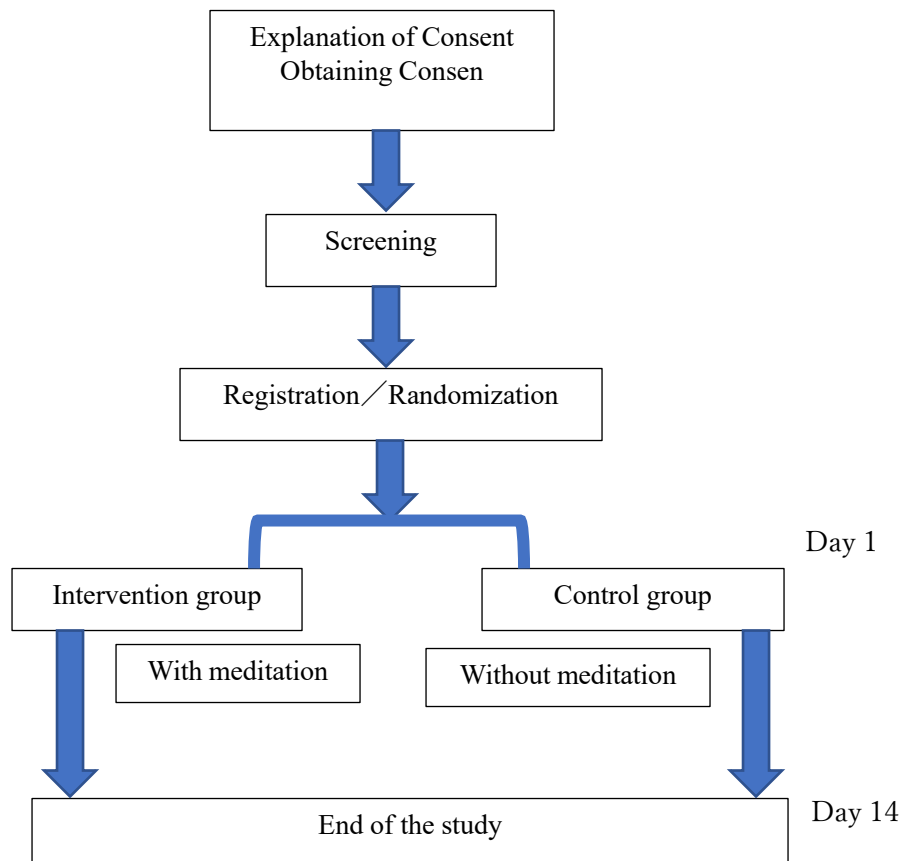


Figure 1 Research process

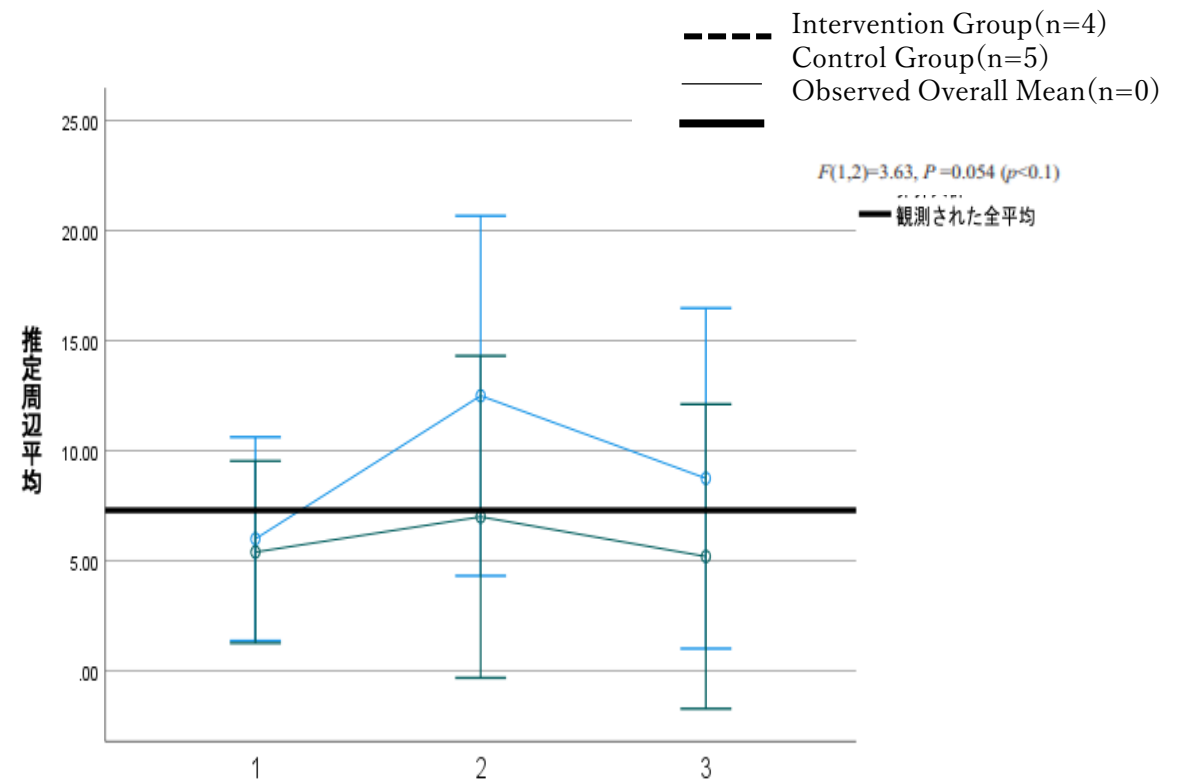


Figure 2 Two-way Analysis of Variance Vigor-Activity: VA

結果

1. 対象者背景本研究には12名が参加した。このうち、介入群では4名（ 61.0 ± 9.14 歳）、非介入群では5名（ 51.6 ± 12.67 歳）が研究を完遂した。
介入群は女性3名（ 61.67 ± 11.50 歳）と男性1名（57歳）で構成され、非介入群は女性2名（ 42 ± 7.07 歳）と男性3名（ 58.00 ± 14.93 歳）であった。
2. POMS2スコアの変化TMD、AH、CB、DD、FI、TA、Fの各指標では有意差は認められなかった。一方、VA（活気）のみ有意差が認められ、瞑想によるポジティブな影響の可能性が示唆された。
3. 介入群の主観的体験（質的データ）参加者からは、心の落ち着き、身体の温かさ、ネガティブ思考の軽減、涙や感情の解放、感謝への気づきなどが報告され、心理的・身体的な変化が確認された。
また、環境（光や騒音）が集中に影響することも示された。
4. 瞑想実施状況介入群は概ね1日1回の瞑想を実施していたが、頻度は十分とは言えず、一部では実施できない日もあった。
5. 全体的な傾向統計的有意差は限定的であったが、質的データからは瞑想が心理的安定やリフレッシュに寄与する可能性が示された。

ご清聴ありがとうございました。